

事例③: 店をつくる

広島県「農業生産法人 桑田の庄」

地域の概要

広島県安芸高田市美土里町の桑田地区は、中山間地域にある60～70世帯が居住する集落である

取り組みの背景

- ・地区内に商店が15～16年前までは存在したが、店主の高齢化により廃業してしまった
- ・地域では伝統芸能の神楽が活発であり、神楽を舞うために若い世帯が多く居住しており、20人以上の子供が集落にいる。子供たちが気軽に商品を購入できる店が欲しいという意見も多い
- ・最も近い買い物施設は、約8km離れたところにあり、買い物をする際には、車で集落外に出る必要があった

取り組み内容

集落の自治活動から生まれた農業生産法人の事務所に、売店を併設し、運営している

実施のポイント

<取り組むための重要なポイント>

■運営組織の成り立ち

- ・地域では自治活動が活発であり、以前から有志が中心となり、集会所や公園を設立する活動を実施していた。そこに携わった有志がコミュニティ組織として有限会社形態で立ち上げた

■コストの圧縮

- ・店舗什器と内装は、地元の大工の協力を得て、地元の山の木材で制作した
- ・運営主体の会社事務所に併設することで、事務員が店舗運営を兼務し、追加の人件費がかからないように運営している

■地域住民の協力

- ・地域住民から子供会や神楽会、消防団の会合の際に、飲食する商品を購入してもらうような形で支援を得ている
- ・地元の有志より、出資を受けている

■他団体との連携

- ・行政から、中山間地域の活性化の交付金の支給を事業立ち上げの際に受けている

■姿勢

- ・店舗運営事業で利益を出すことは目的とせず、集落に本来あるべき機能を復活させる取り組みとして実施している。運営主体としての収益は地域外への農産物の販売で上げ、その利益を地域に還元したいと考えている

<地域住民の協力を得て実施するために重要なポイント>

- ・地域に対する愛着、郷土愛が必要である。結束しなければ立ち上げ、運営が難しい
- ・一方、集落の「全員」を結束するのは困難である。強制的に参加させるような形ではいけない
- ・住民に、自分たちの地域の店、という認識をもってもらふこと。
- ・一人で始めるのではなく、地域を巻き込んで進めなければならない

事例③: 店をつくる

広島県「農業生産法人 桑田の庄」

取り組みの課題

現在、大きな課題は無いが、取り扱い商品によって免許が必要なものがあり、苦勞した

今後の発展

- ・売上を大きくし、運営を軌道に乗せて次の世代にバトンタッチすること
- ・地域農産物(米)の6次産業化などによる収益の向上
- ・桑田の庄を大きくすることで、雇用を生み出すことも含めて、地域へその利益を還元すること

取り組みの体制

<地域住民とのかかわり>

- ・店舗の優先利用
- ・有志からの出資
- ・運営主体の事務所と店舗がつながっていることで、住民との間にコミュニケーションが生まれ、住民の意見やニーズの把握に非常に役立っている

<他団体の協力>

- ・行政から交付金を得ることができている
- ・他住民組織との連携
- ・商品の供給は、他の町の卸売業から受けている

■事業実施体制図

